



食餌の考え方

ペットのグルテンフリー食に関して考慮すべきこと

人間におけるグルテンフリー食の主な使用目的は、セリアック病の治療です。この疾患は自己免疫疾患の一種であり、小麦、大麦、ライ麦に含まれるグルテンの成分であるグリアジンを、この疾患に遺伝的に罹患しやすい人が摂取した場合に誘発される場合があります。セリアック病が犬や猫で診断されたことはありません。



セリアック病患者は世界の人口のわずか 0.5~1% という事実にもかかわらず、グルテンフリー食は人間の栄養トレンドとなり、ペット用のグルテンフリー食も人気が高まりつつあります。

キーメッセージ

- グルテンという用語は、穀類に含まれる貯蔵タンパク質を指します。グルテンの特定成分の1つであるグリアジンは、小麦、大麦、ライ麦に含まれるグルテンにのみ含まれています。
- セリアック病に罹患している人が小麦、大麦、ライ麦に由来するグリアジンを摂取した場合、免疫反応が誘発される場合があります。グルテンフリー食は、セリアック病の療法食として使用されるだけでなく、今では健康な人々の間でも栄養トレンドとして人気が高まりつつあります。
- グリアジンは、米、トウモロコシ、キビ、モロコシ（ソルガム）などの他の穀物に由来するグルテンには含まれていません。したがって、これらの穀物は、「グルテンフリー」食の人々にとって安全と考えられています。
- セリアック病それ自体が犬や猫で診断されたことは**ありません**。しかし、ペットフードのトレンドは人間の栄養トレンドに追随する傾向があるため、グルテンフリーや穀物不使用の市販ペットフードの売上は伸びてきています。

(次のページに続く)

キーマッセージ (続き)

- グルテン過敏症の一種（グルテン腸疾患）は、非常に限られた数の犬で認められていますが、猫では認められていません。罹患したのは、アイリッシュセッターの1家系、およびボーダーテリアのある群に属する犬です。このような犬には、グルテンフリー食が有効です。
- 健康な犬にとって、グルテンフリー食が他の栄養的に完全でバランスのとれた食餌に比べて優れているという科学的な証拠はありません。
- 小麦グルテンは、人間の食物と同様に市販のペットフードでも、食物の形状の維持と食感の向上に役立っています。

その他のリソース

Verlinden, A., Hesta, A., Millet, S., & Janssens, G. P. J. (2006). Food allergy in dogs and cats: A review. *Critical Reviews in Food Science and Nutrition*, 46, 259–273. doi: 10.1080/10408390591001117

Gaschen, F. P., & Merchant, S. R. (2011). Adverse food reactions in dogs and cats. *Veterinary Clinics of North America: Small Animal Practice*, 41, 361–379. doi: 10.1016/j.cvsm.2011.02.005

Gujral, N., Freeman, H. J., & Thomson, A. B. R. (2012). Celiac disease: Prevalence, diagnosis, pathogenesis and treatment. *World Journal of Gastroenterology*, 18(42), 6036–6059. doi: 10.3748/wjg.v18.i42.6036

Purina Institute は、ペットがより長く、より健康的に生きるための、科学に基づく顧客に寄り添った情報を提供することで、ペットの健康に関する議論の最前線に栄養を位置付けることを目指しています。